

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は堅調な推移を継続か

[ 2月22日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		2月15日～2月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	105.00	106.22(17)	104.91(15)	105.60	+0.66
ユーロ・ドル	1.2120	1.2169(16)	1.2023(17)	1.2098	-0.0022
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	30,017.92	+497.85	日本10年債利回り	0.096	+0.028
ダウ平均株価	31,493.34	+62.64	米10年債利回り	1.296	+0.087
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 22日 独2月ifo景況感指数  
米1月景気先行指数
- 23日 NZ第4四半期小売売上高  
英1月雇用統計  
スイス1月生産者・輸入価格  
米12月S&Pケースシーラー住宅価格指数、米12月住宅価格指数  
米2月消費者信頼感指数  
パウエルFRB議長 議会証言 (上院銀行委員会)
- 24日 NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利  
独第4四半期国内総生産 (GDP) 確報値  
米1月新築住宅販売件数  
パウエルFRB議長 議会証言 (下院金融委員会)
- 25日 日本12月景気動向指数  
米新規失業保険申請件数、米1月耐久財受注速報値  
米第4四半期国内総生産 (GDP) 改定値
- 26日 NZ1月貿易収支  
日本1月鉱工業生産指数速報値、日本1月小売業販売額  
スイス第4四半期国内総生産 (GDP)  
スイス2月KOF先行指数  
米1月個人所得・個人支出  
カナダ1月鉱工業製品価格  
米2月シカゴ購買部協会景気指数  
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値  
G20財務相・中央銀行総裁会議 (26～27日、オンライン)

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染再拡大は景気に与える影響が警戒されるものの、米国の景気は徐々に持ち直して、米長期金利も底堅い推移が見込まれる。こうした中、ドル円は104円を大きく割り込むことはなく、104円台を中心に堅調な推移となりそうとした。

【ドル円は106円台乗せの後は戻り一服】

米国ではNYダウ、S&P500、ナスダックの主要3指数が最高値更新を繰り返しており、歴史的な高値圏に位置している。バイデン政権による追加経済対策への期待感や新型コロナウイルスのワクチン接種の普及による景気回復への期待感などが背景にある。こうした中、日経平均は15日に30年半ぶりに3万円の台に乗せた。

米長期金利が上昇傾向にあり、17日には米10年物国債利回りは1.33%台まで上昇している。米追加経済対策による景気回復期待、米財政支出拡大に伴う国債の発行拡大、原油価格の上昇などによるインフレ期待の高まりなどが背景にある。世界的にも国債利回りの上昇が見られる。

大寒波に見舞われた米テキサス州では原油や石油製品の一部が生産不能に陥っている。電力不足などの影響でテキサス州の石油生産施設の多くが操業停止を余儀なくされており、生産の回復には時間がかかるとみられる。この影響を受けて、1月末には52ドル台だったNY原油は17日には61ドル台まで上昇している。原油高がインフレ期待の高まりの一因となっている。

米長期金利の上昇を受けてドル買いの動きに傾いており、ドル円は16日のNY市場で106円台に乗せ、106.22近辺まで上昇した。10日に104.30台まで下落した後は戻り歩調に転じて、105円突破後も上値を伸ばして、106円台まで上昇した。106円台に乗せた後は米長期金利の上昇一服などもあり、105円台に軟化している。

このところは、米経済指標が予想から上振れするケースが多く、追加経済対策により想定よりも一段と景気回復が進んでインフレ警戒感が高まるとの見方も出てきている。堅調な米経済指標が続くようなら、一段のドル買いに傾き、ドル円は106円台を固めて一段高となる可能性も出てくる。

17日に公表された米FOMC議事録（1月26日～27日開催分）では、「財政刺激策とワクチンが大幅な経済引き上げをもたらす」と指摘した一方で、「実質的な進展には時間がかかり、資産購入を変更する前にはコミュニケーションをとることが重要」との見解を示した。「米国の雇用や物価の目標からは程遠い」として、景気回復に時間がかかる可能性を指摘した。ただ、おおむね市場の想定通りの内容だったことで、市場への影響は限定的となった。

堅調な株価がドル売りの動きにつながりにくくなっており、ドル円は米長期金利の動向に左右されやすい展開が続くそう。良好な米経済指標が相次ぐようだと、一段の米長期金利の上昇につながり、ドル円は底堅い動きを続けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、104.50～106.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、22日に米1月景気先行指数、23日に米12月S&Pケースシーラー住宅価格指数、米12月住宅価格指数、米2月消費者信頼感指数、24日に米1月新築住宅販売件数、25日に日本12月景気動向指数、米新規失業保険申請件数、米1月耐久財受注速報値、米第4四半期国内総生産（GDP）改定値、26日に日本1月鉱工業生産指数速報値、日本1月小売業販売額、米1月個人所得・個人支出、米2月シカゴ購買部協会景気指数、米2月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、G20財務相・中央銀行総裁会議（26～27日、オンライン）などがある。

#### 【ユーロドルは上値の重い動きが継続か】

ユーロドルは1.20～1.21台でのみみ合いが続いて、16日には1.2169近辺まで上昇した。17日には良好な米経済指標を受けてドル買いの動きに傾き、1.21ドルを割り込んで、1.2023付近まで下落した。ただ、一本調子でのドル売りの動きとはならず、下げ渋りを見せている。

このところの米経済指標は前月から改善傾向を示して、予想から上振れするケースも多く、その場合は米長期金利の上昇につながり、ドル高に傾きやすくなる。ユーロ圏の経済指標にも改善傾向を示しているものも見られるが、米国ほど顕著ではなく、相対的にドル買いに傾きやすくなるとみられる。このため、ユーロドルは上値の重い流れが継続することとなりそう。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1900～1.2200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、22日に独2月IFO景況感指数、23日にNZ第4四半期小売売上高、英1月雇用統計、スイス1月生産者・輸入価格、24日

にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、独第4四半期国内総生産（GDP）確報値、25日に米新規失業保険申請件数、米1月耐久財受注速報値、米第4四半期国内総生産（GDP）改定値、26日にNZ1月貿易収支、スイス第4四半期国内総生産（GDP）、スイス2月KOF先行指数、カナダ1月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。